

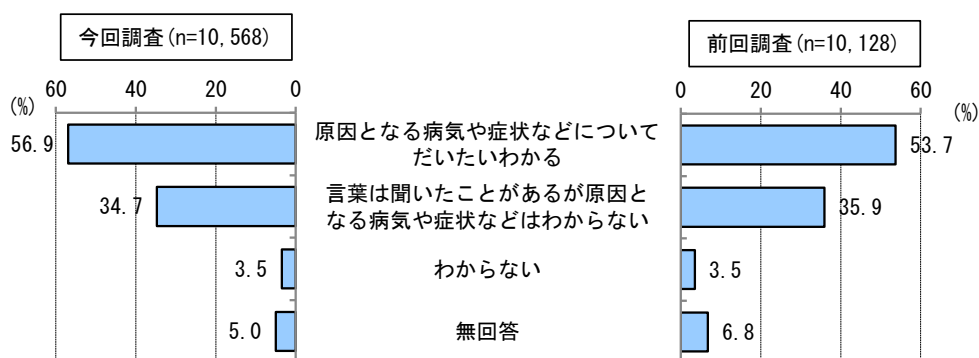
(オ) 認知症について

認知症という病気の認知度については、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」が56.9%で、前回調査結果よりも回答割合が高まっています。一方、「言葉は聞いたことがあるが原因となる病気や症状などはわからない」は34.7%と前回よりやや低い回答割合となっています。

認知症を不安に感じる時の相談先については、「かかりつけの医師」が61.1%と最も高く、「区役所・保健福祉センター」、「地域の精神科・神経内科などの医療機関」が2割台となっています。

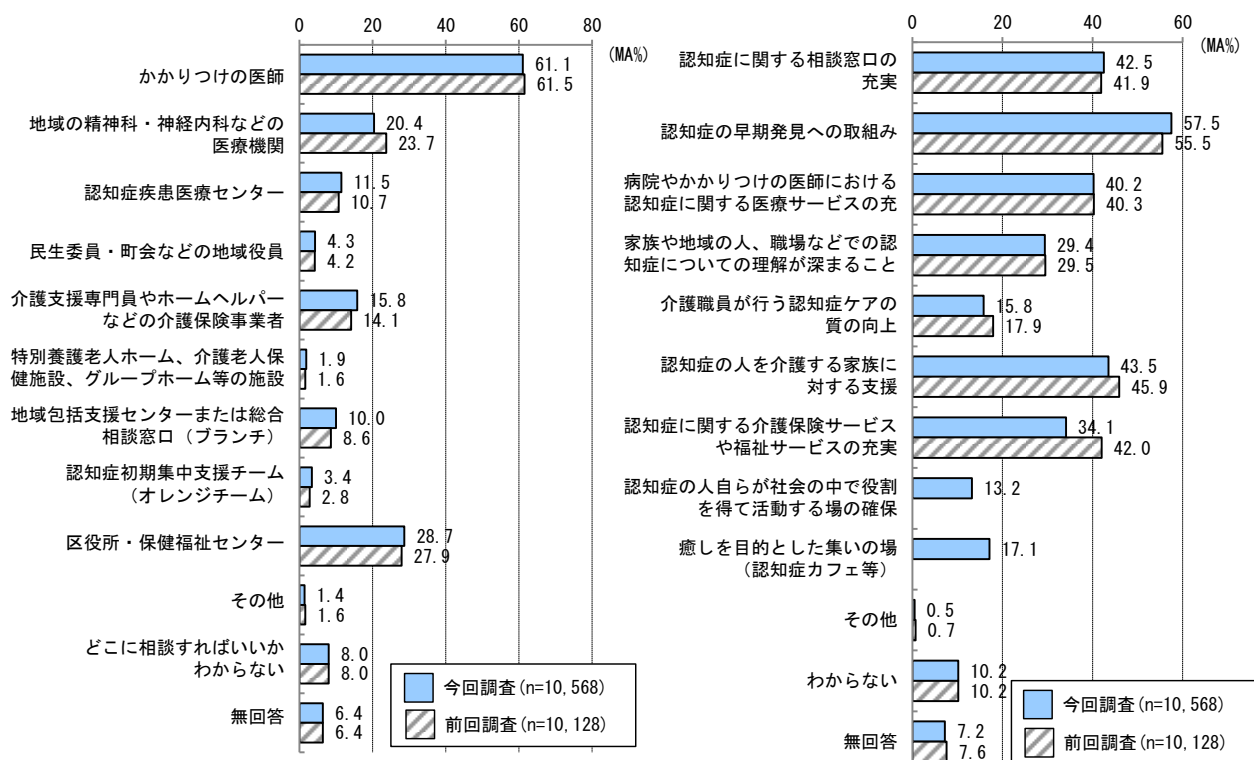
認知症の人の支援に必要なことについては、「認知症の早期発見への取組み」が57.5%と最も高く、次いで「認知症の人を介護する家族に対する支援」が43.5%となっています。

図表 4-1-9 認知症という病気の認知度



図表 4-1-10 認知症を不安に感じる時の相談先

図表 4-1-11 認知症の人の支援に必要なこと

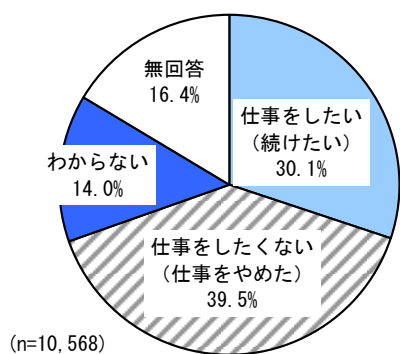


(カ) 就労について

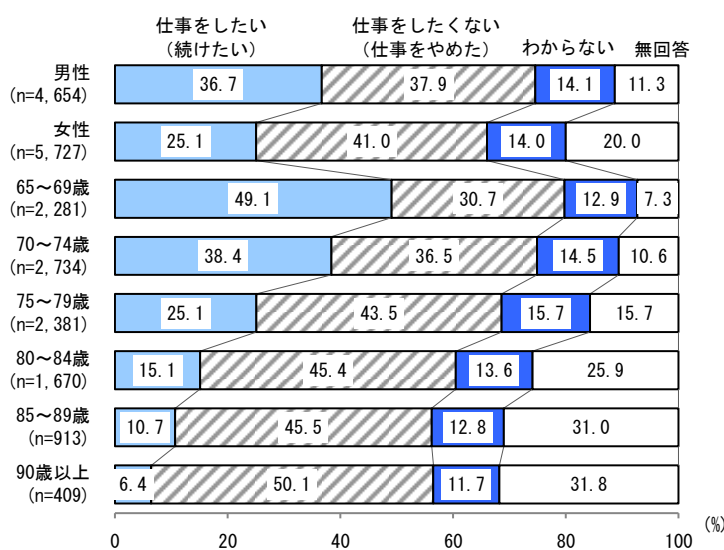
今後の就労意向については、「仕事をしたい(続けたい)」が30.1%となっており、性別にみると、女性より男性のほうが1割程度高くなっています。年齢別では、「仕事をしたい(続けたい)」が65～69歳では半数近くを占めていますが、高齢になるにつれて「仕事をしたくない(仕事をやめた)」が増加し、75～79歳で割合が逆転しています。

仕事をしたい(続けたい)と回答した人に、その理由をたずねると、「健康に良いから」が59.5%で最も高く、次いで「生きがいを得られるから」が56.6%、「生活費が必要だから」が52.0%となっています。前回調査と比べると、「生活費が必要だから」は前回よりも高い割合となっています。

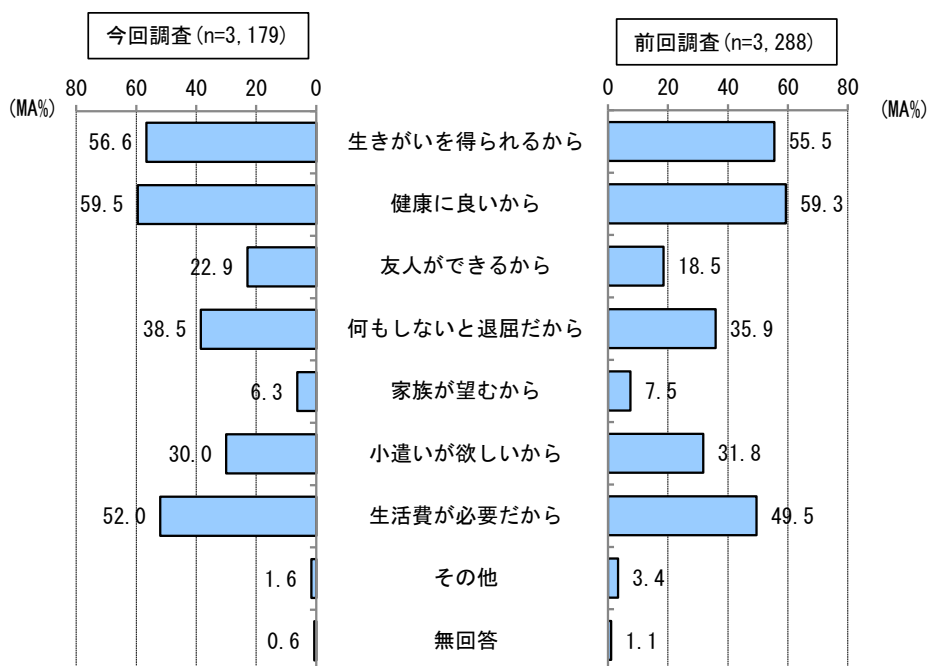
—図表4-1-12 今後の就労意向



図表4-1-13 今後の就労意向(性別・年齢別)



図表4-1-14 仕事をしたい(続けたい)理由



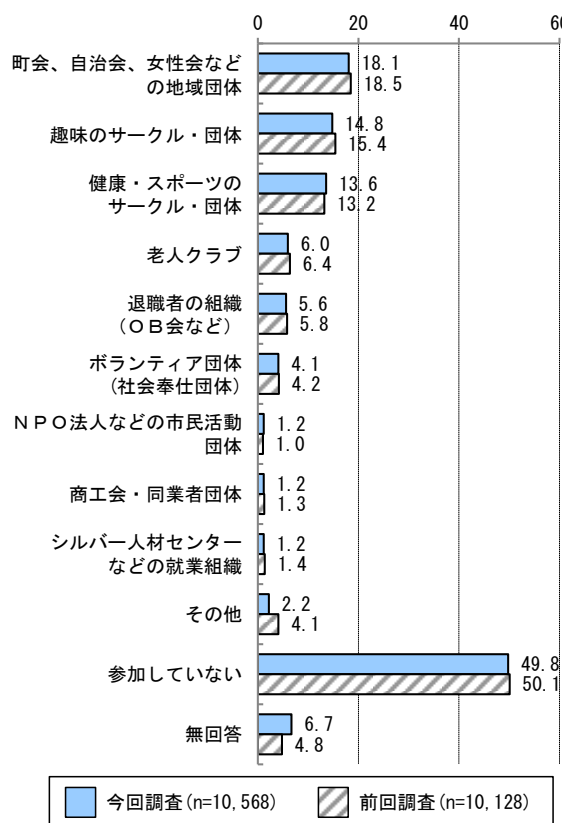
(キ) 地域活動について

現在、継続的に参加している活動では、「町会、自治会、女性会などの地域団体」、「趣味のサークル・団体」、「健康・スポーツのサークル・団体」などが挙げられていますが、回答割合は「参加していない」が最も高く 49.8%となっています。参加している人のきっかけでは「健康のため」との回答割合が高く、参加していない人の理由では「興味をひくものがない」が高くなっています。

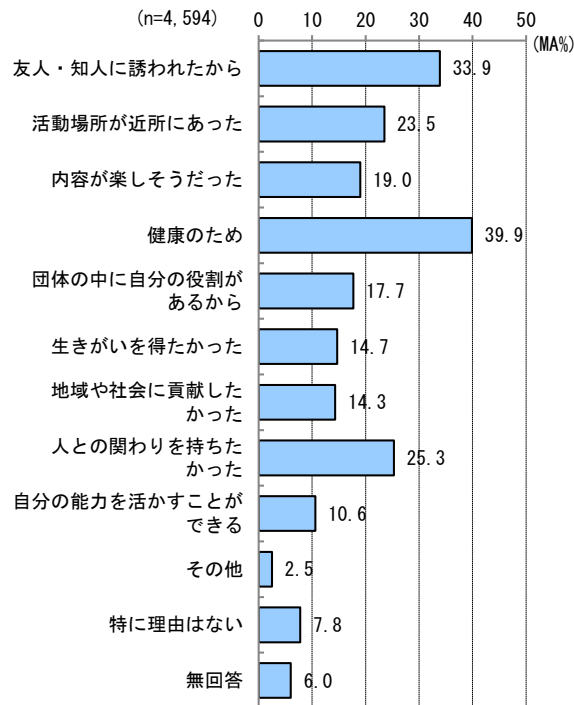
また、地域社会に貢献できると考える活動では、「ボランティア活動」が 21.9%、「地域の防災・防犯などの活動」が 11.5%となっています。

一方で、近所の方がお困りのときに支援できることについては、「安否確認の見守りや声かけ」が 37.5%で最も高く、次いで「災害時の手助け」が 21.2%、「ちょっとした買い物の手伝い」と「話し相手、相談相手」がともに 19.2%となっています。

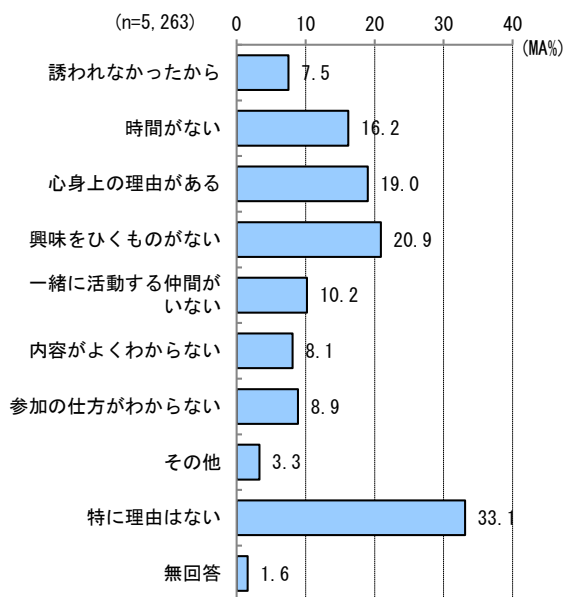
図表 4-1-15 継続的に参加している団体や集まり



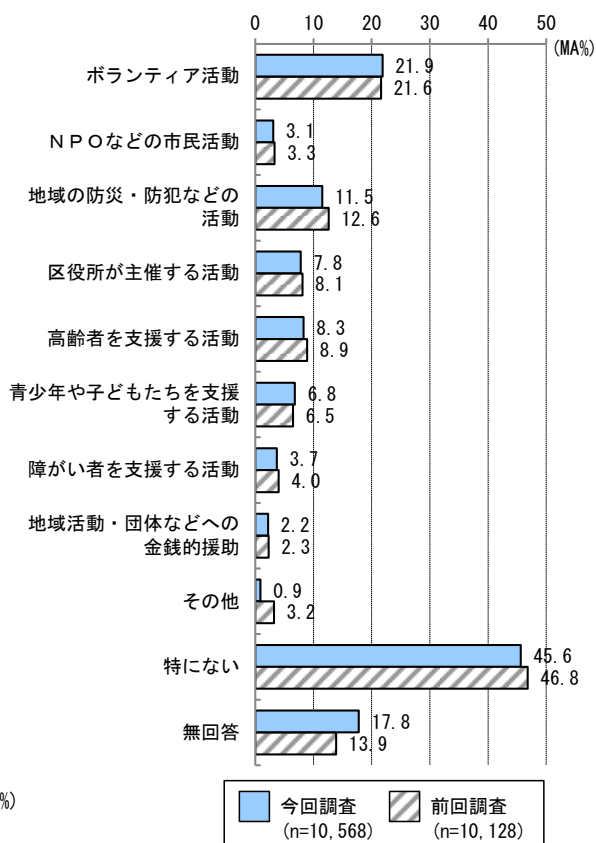
図表 4-1-16 参加のきっかけ



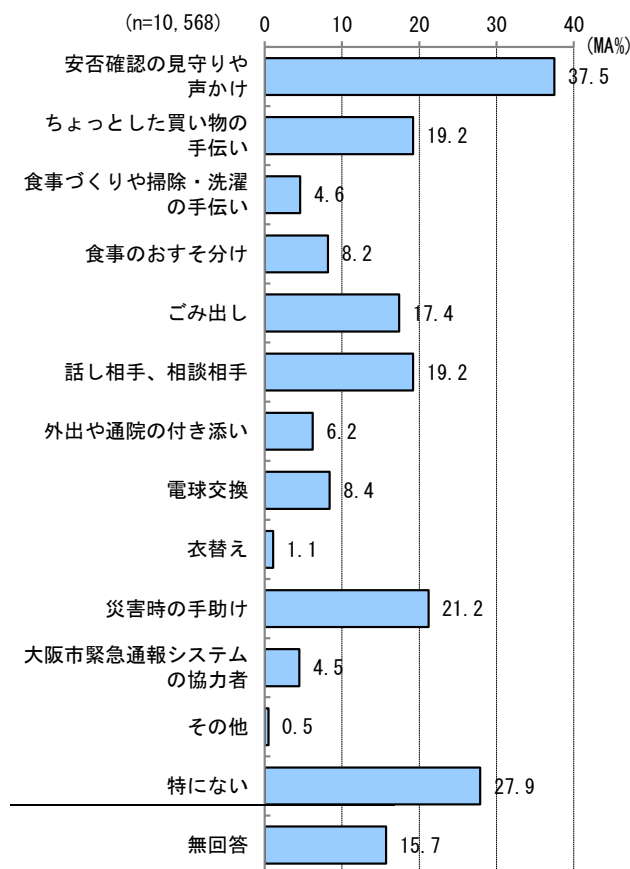
図表 4-1-17 参加していない理由



図表 4-1-18 地域社会に貢献できると考える活動



図表 4-1-19 近所の方への支援

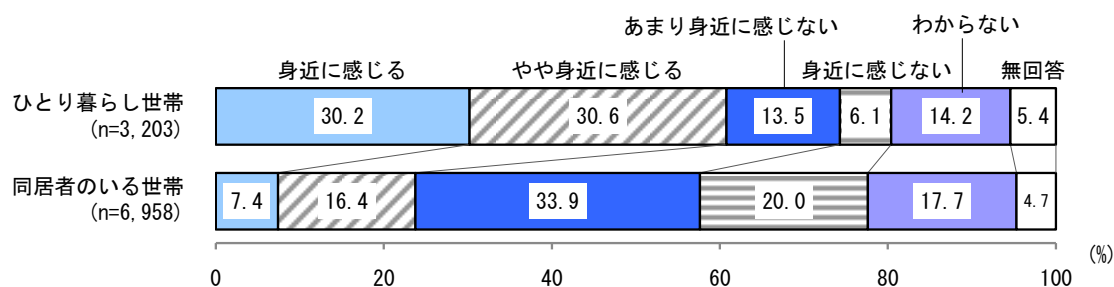


② ひとり暮らし調査（本人調査における世帯比較結果）

(ア) 孤立死について

ひとり暮らし世帯の回答者の「孤立死について考えること」について、「身近に感じる」「やや身近に感じる」をあわせた割合は60.8%となっており、同居者のいる世帯の23.8%に対して大きな差がみられます。

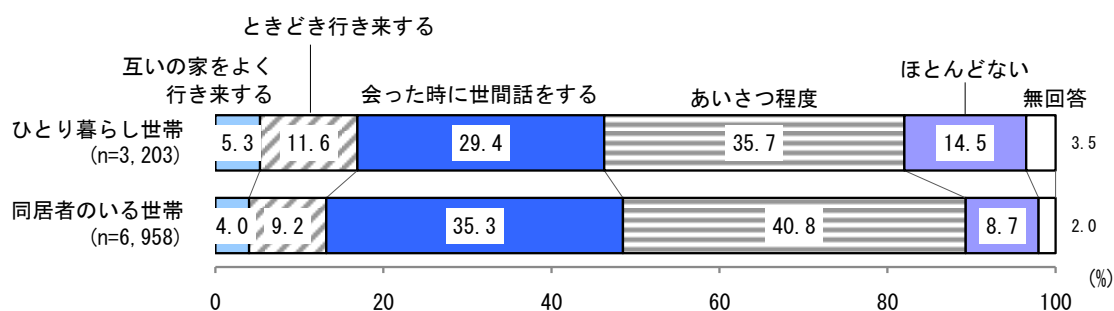
図表4-2-1 孤立死に関する不安



(イ) 近所付き合いの状況

ひとり暮らし世帯の回答者の「近所付き合いの状況」については、「互いの家をよく行き来する」、「ときどき行き来する」の回答割合が、同居者のいる世帯に比べて高くなっています。また、「ほとんどない」についても、同居者のいる世帯に比べて回答割合が高くなっています。

図表4-2-2 近所付き合いの頻度

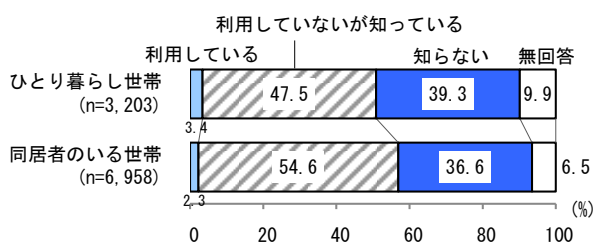


(ウ) 在宅で提供される医療について

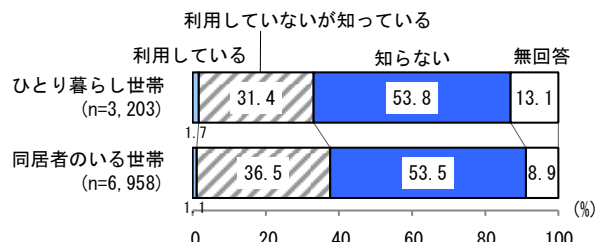
ひとり暮らし世帯の回答者の「在宅で提供される医療」については、「利用している」はいずれの項目も同居者のいる世帯よりひとり暮らし世帯のほうが回答割合が高くなっています。「利用していないが知っている」の回答割合は、「緊急時に対応してくれる看護師または訪問看護」のみ同居者のいる世帯よりもひとり暮らし世帯のほうが高くなっています。

図表 4-2-3 在宅で提供される医療

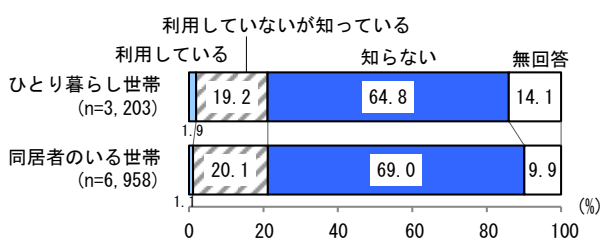
(1) 医師による訪問診療



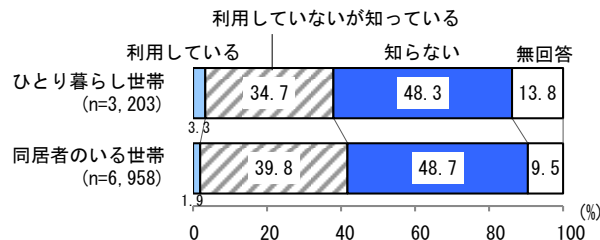
(2) 歯科医師による訪問歯科診療



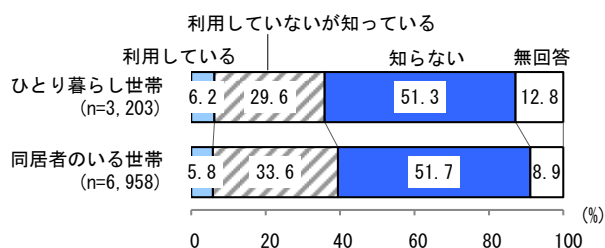
(3) 薬剤師による訪問薬剤管理指導



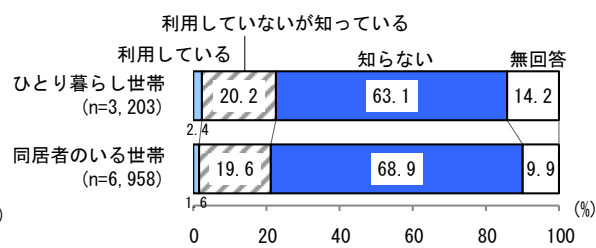
(4) 看護師などによる訪問看護



(5) 緊急時に対応してくれる医師または医療機関



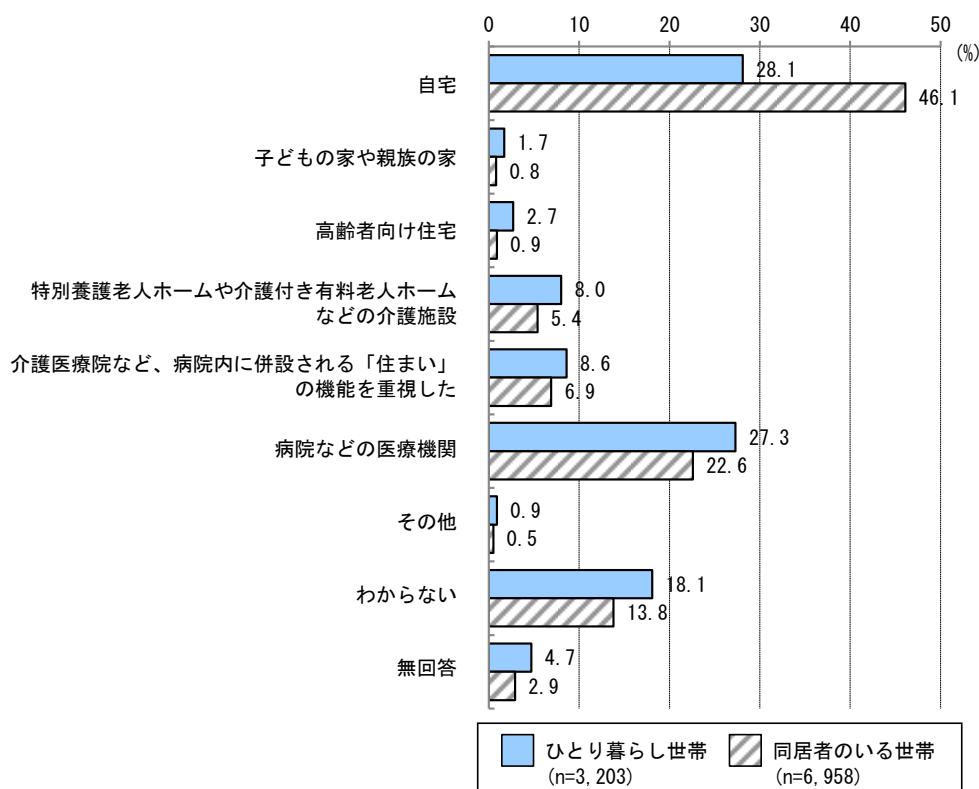
(6) 緊急時に対応してくれる看護師または訪問看護



(工) 人生の最終段階に過ごしたい場所について

ひとり暮らし世帯の回答者の「人生の最終段階に過ごしたい場所」については、「自宅」が28.1%と最も高くなっていますが、同居者のいる世帯に比べると2割低くなっています。「自宅」に次いで「病院などの医療機関」が高くなっています。

図表4-2-4 人生の最終段階に過ごしたい場所

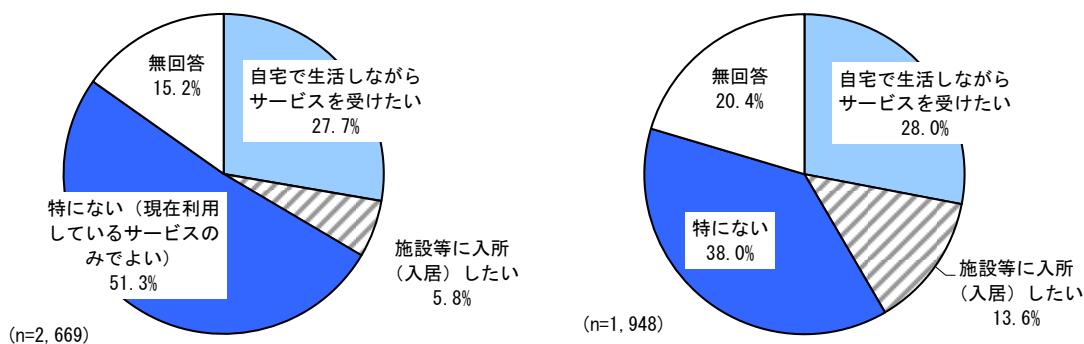


③ 介護保険サービス利用者・未利用者調査

(ア) 1年以内に利用したい介護保険サービス

1年以内に利用したい介護保険サービスについては、サービス利用者、サービス未利用者とも「施設に入所(入居)したい」よりも「自宅で生活しながらサービスを受けたい」の方が高くなっています。

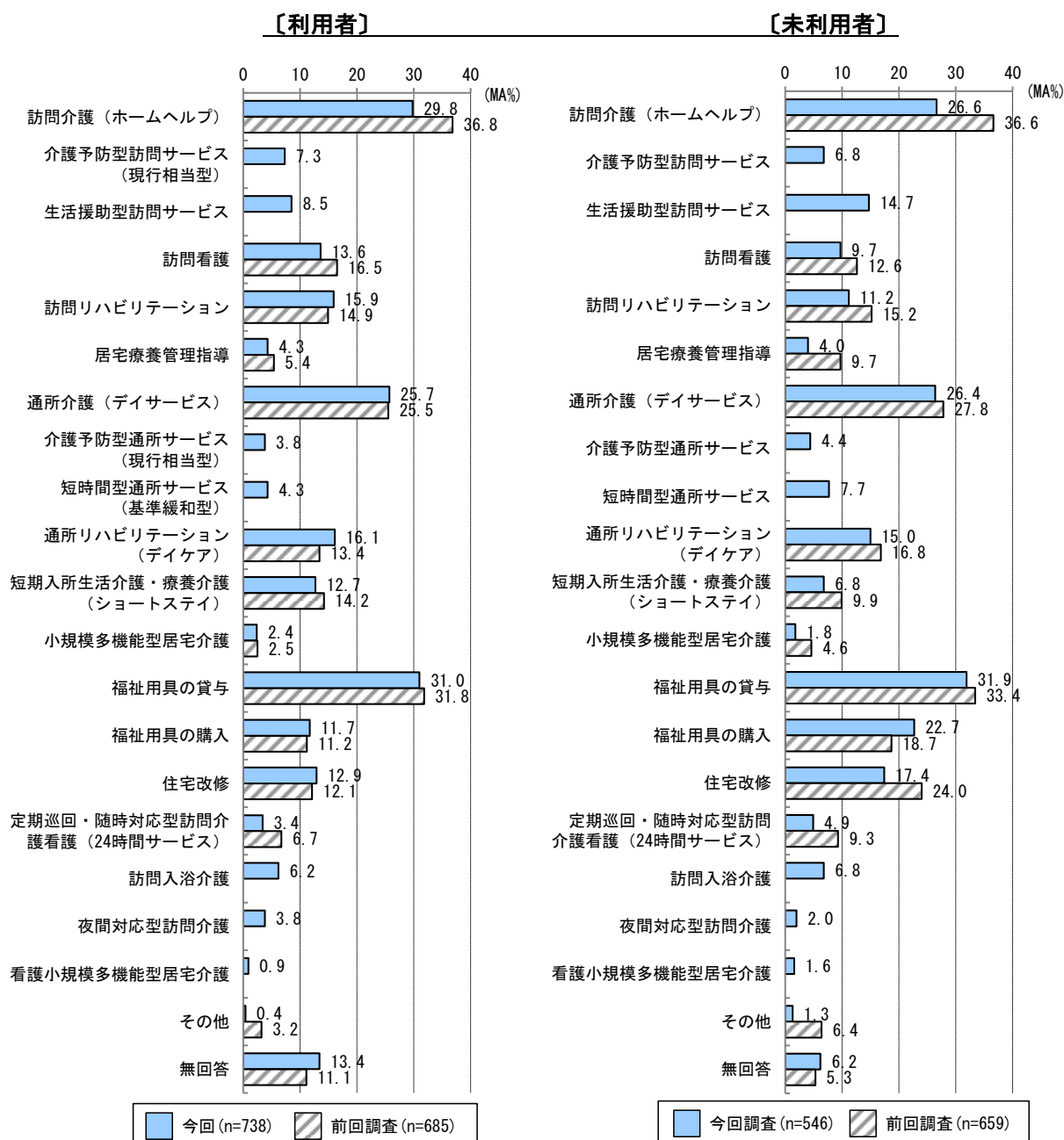
図表4-3-1 利用中のサービスとは別に、1年以内に利用したい介護保険サービス
〔利用者〕 〔未利用者〕



(イ) 1年以内に利用したい「在宅」の介護保険サービス

1年以内に利用したい在宅の介護保険サービスについては、サービス利用者・未利用者ともに「福祉用具の貸与」、「訪問介護（ホームヘルプ）」、「通所介護（デイサービス）」の順に高く、次いで利用者では「通所リハビリテーション（デイケア）」、未利用者では「福祉用具の購入」となっています。

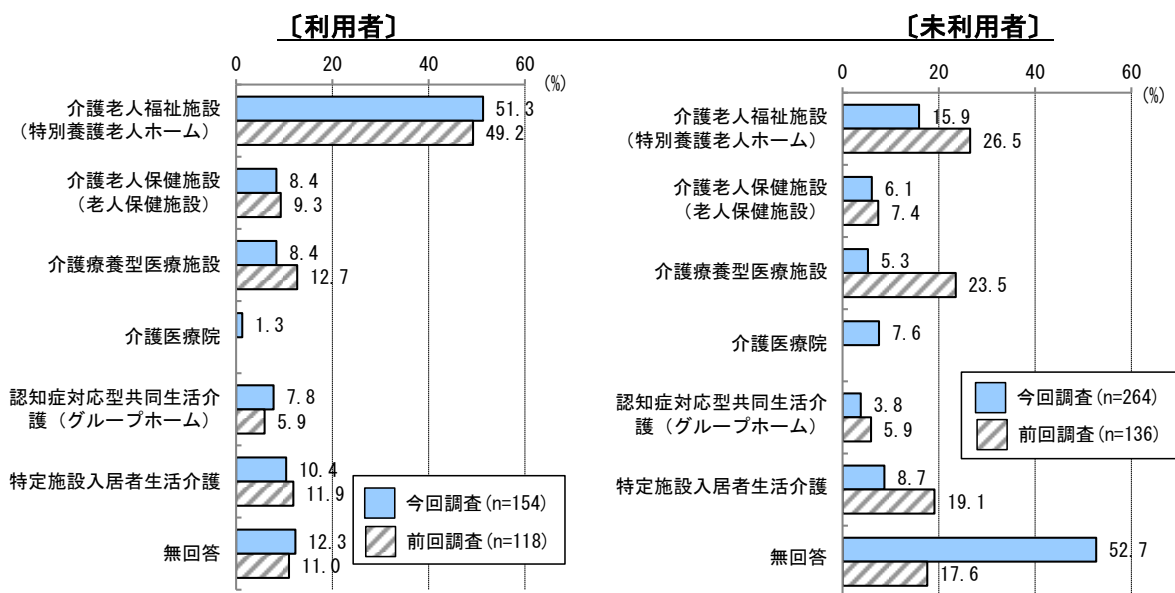
図表4-3-2 1年以内に利用したい在宅の介護保険サービス



(ウ) 1年以内に利用したい「施設」の介護保険サービス

1年以内に利用したい施設の介護保険サービスについては、サービス利用者、サービス未利用者とも「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が最も高く、次いで「特定施設入居者生活介護」となっています。

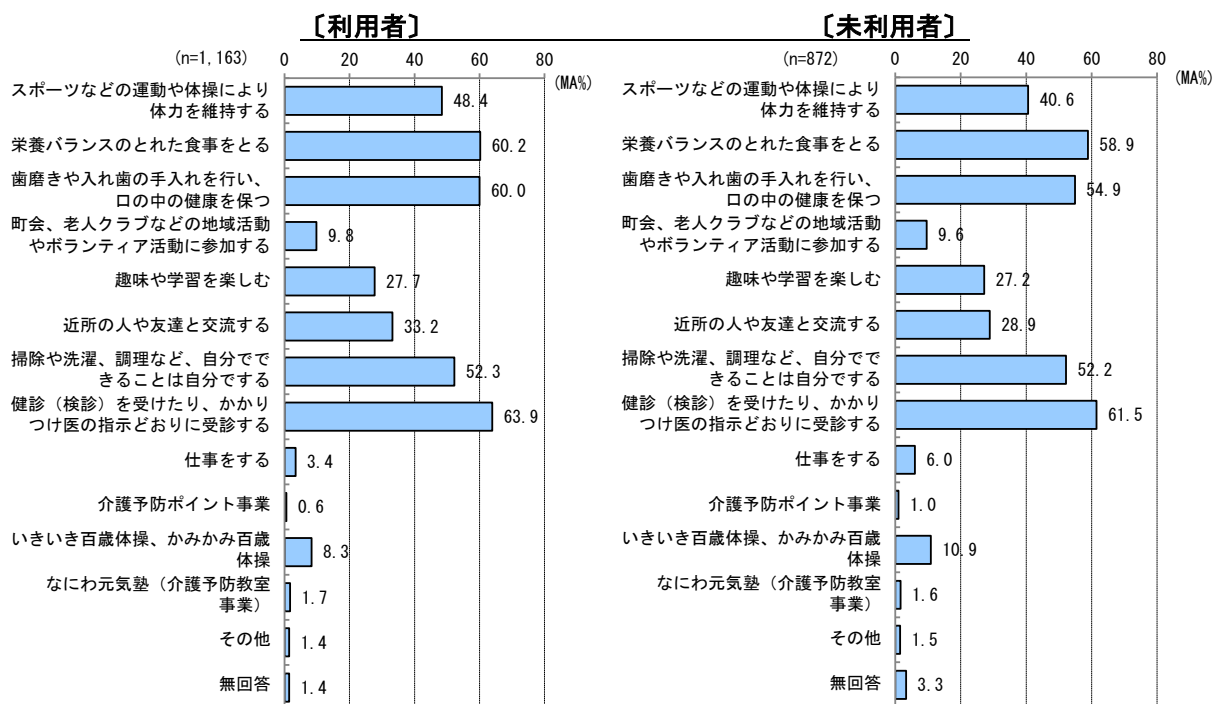
図表 4-3-3 1年以内に利用したい施設の介護保険サービス



(エ) 介護予防の取組みについて

介護予防の取組みについては、利用者・未利用者ともに、「健診（検診）を受けたり、かかりつけ医の指示どおりに受診する」が最も高く、次いで「栄養バランスのとれた食事をとる」、「歯磨きや入れ歯の手入れを行い、口の中の健康を保つ」などとなっています。

図 4-3-4 取り組み意向のある介護予防

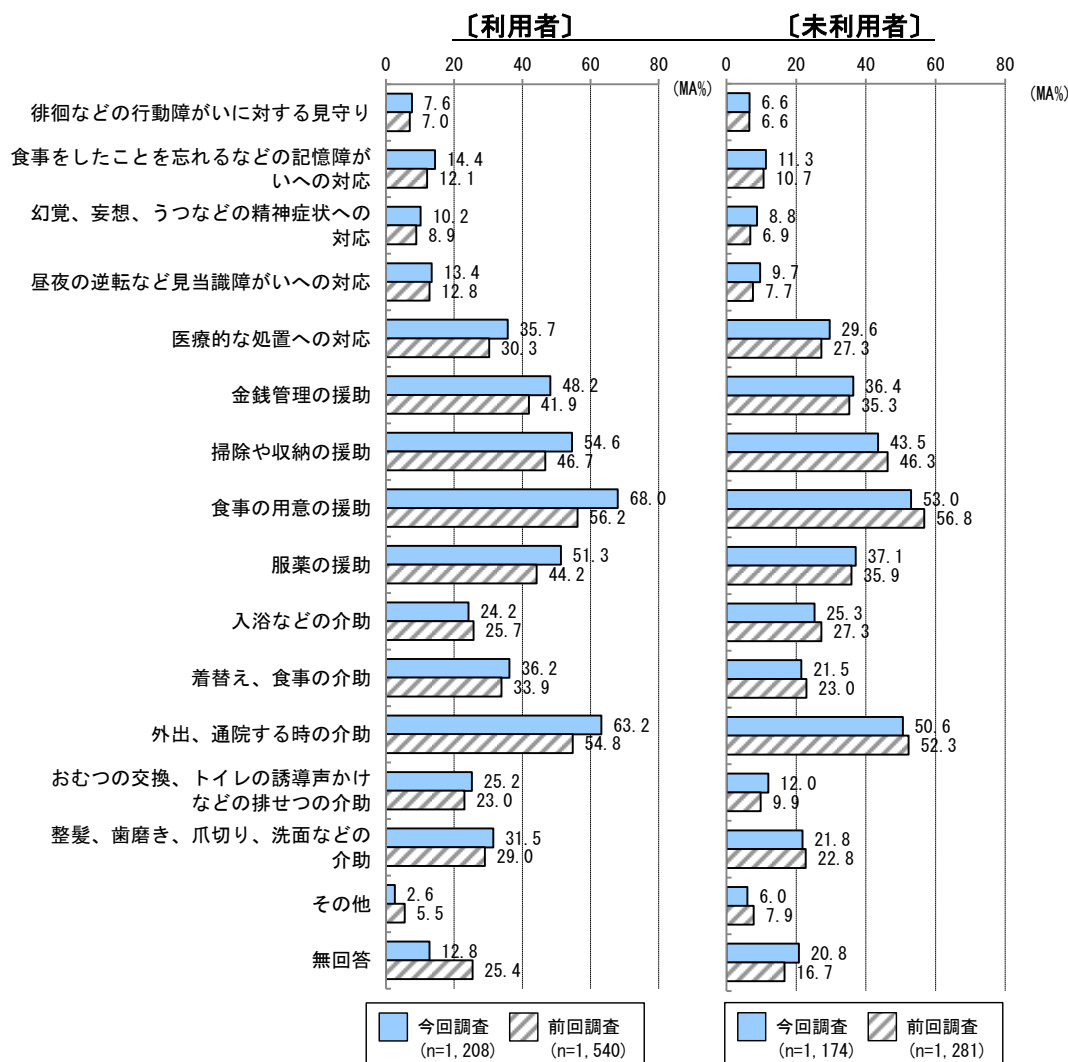


④ 介護をしている方を対象とした調査

(ア) 介護の内容について

介護をしている方にたずねた、回答者本人への介護の内容については、サービス利用者・未利用者ともに、「食事の用意の援助」が最も高く、次いで「外出、通院する時の介助」、「掃除や収納の援助」となっています。利用者では「入浴などの介助」を除く項目で、前回調査結果を上回っています。

図表 4-4-1 本人への介護内容



(イ) 介護時の状態、困りごとについて

介護者の虐待の有無については、サービス利用者・未利用者の両介護者とも「つい大声でどなってしまったことがある」が最も高く、利用者では前回よりも割合は高まっています。次いで利用者では「イライラして手をあげそうになったことがある」、未利用者では「無視してしまったことがある」などとなっています。

介護を行ううえで困っていることについては、サービス利用者・未利用者の両介護者とも「ストレスなどの精神的な負担が大きい」が最も高く、次いで「自分の時間がもてない」となっています。続いて、サービス利用者の介護者は「身体的な負担が大きい」、サービス未利用者の介護者では「本人が介護保険サービスの利用を望まない」となっています。